



ち え の わ

Vol. 16

「HULA」

会員 若林 擴

「HULA」というのはハワイ語で「踊り」という意味で正式には「フラダンス」ではなく「フラ」といいます。

このハワイのフラはキャプテンクックがハワイを初めて訪れた1778年には「メレ（唄）フラ（ダンス）／唄を伴った伝統的な踊り」があり、既に文化を伝える職業としてのフラの踊り手が存在したといわれています。

フラは宗教、楽しみ、新しい出来事を伝える手段であり、男は禪、女は素裸にタパという樹皮布で踊っていたので、これを初めて見たカトリックの宣教師は仰天し、勿体ないことに50年間もフラを禁止させました。

ハワイに根付いたフラの文化は、カラカウア王の戴冠式（1874年）に復活致しました。カラカウア王はハワイ州歌「Hawaii Pono! / ハワイポイ」の作詞者でもあり、ワイキキの目抜き通りに王様の名がつけられている程ハワイ文化の復古に寄与した王様です。

50年間もフラは禁止されたので、1960年代にもハワイ文化弾圧の気風が残っていて、フラといっても座って踊る「フラ・ノホ」しか許されませんでした。

1965年にカメハメハ・スクールで、周囲の反対を押し切って立ち上がってフラを踊ったものの、腰を動かす事はなく、片足を前に出して立ったまま、ハンドモーションだけの踊りであったとは驚きです。

「フラ」は「カヒコ」と呼ばれる古典フラと、モダンスタイルのフラ「アウアナ」に大別され、「カヒコ」は「チャント／詠唱」と共に打楽器「イプ」のみで演奏して決まり事も沢山あります。時代にあった楽器であれば何を使ってもいいのが「アウアナ」のフラです。

フラは同じハワイ諸島の島々でも個性の違いがハッキリしています。例えばカウアイ島のように気候が穏

やかなところでは優しい踊り。ハワイ島やモロカイ島のように自然が厳しいところでは踊りが激しい傾向があり、島によって踊り方も違い、同じ曲が踊られているわけではないそうです。

「TAMLE / タムレ」は、タヒチの民族音楽又は民族舞踊の事で、打楽器と掛け声によるリズムに乗せて、女性や男性が手や腰を激しく振るタヒチアンダンスは、ハワイの伝統音楽フラの起源ともいわれています。

16世紀から18世紀後半にかけて渡来したカトリックの宣教師のためにタヒチもタヒチアンダンスを失い、1895年フランス革命記念日を祝して初めてタヒチアンダンスが許可されました。ハワイやタヒチの人々はもともと口承によって歴史や文化を受け継いできた民族なので、伝統やダンスは密かに守り続けられていました。

「タヒチ」と一般的に呼んでいる場所は、正式には「フレンチポリネシア」というフランスが統治する国。タヒチの人は「イアオラアナ」「ボンジュール」と挨拶し、アメリカの州ハワイの人は「アロハ」「ハウアユー」と挨拶するように、何千キロも離れた島なのに似た言語・似た文化をもっています。

「HULA」の基本ステップは、左右にイチニサンシ、ニニサンシと往復し、これに左右に伸ばした腕で招く、「ハンドモーション」が付いて、そのハンドモーションと腰の動き「スエイ」と足の「ステップ」の組み合わせを「カホロ」といい、ハワイ音楽の前奏「バンブ」を2回聞いてから「カホロ」はスタートします。

歌詞の情景を「ハンドモーション」で表現し、腰の振り「スエイ」と足の「ステップ」を組み合わせ「カホロ」が始まり、花か葉っぱの冠を被り、腰にトロピカル模様の布を巻き付けると、体脂肪は「カネ／男」の魅力に、皮下脂肪は「ワヒネ／女」の魅力と変

わります。

誰が見ても現地人になると、どう踊っても様になるもの、美人の「クム／先生」についてガラス箱の鏡張りスタジオ内で、ハワイ語の「カイマナヒラ／ダイヤモンドヘッド」を、最初は4パートに分けて習う、1番でカイマナヒラの高い山を表現し、2番でワイキキの浜をサーフィンで波乗りし、3番でカピオラニ公園を散歩して汗をかき、4番でお話は元のカイマナヒラに戻ります。

もともと「フラ」は「カネ／男」の踊りでした。ゆっくりした動きで一条乱れぬ正確さが要求され、力強くかつ優美に踊ります。ヒーリングのハワイアンミュージックに合わせて、自ら歌いながら何も考えずに踊ると、心地よく単純で優雅な動きは、盆踊りより性に合います。

写真の葉っぱの冠と、レイとハワイから取り寄せたトロピカル模様のサロングを纏うと、相撲だと新弟子検査の合格基準の、身長171センチ、体重88キロの私は、初めは白鵬の土俵入りの状態だったのが、ついにクラブ・ゴールデン・スパ専属の俊敏な「カネ／男」フラダンサーに変身しました。



いまは、昔懐かしい「カイマナヒラ」「ブルーハワイ」「ビヨンザリーフ」「ハワイアンウエディングソング」「フキフラウ」「タイニーバブルス」「リトルブラウンギャル」「パーリーシェル」「月の夜は」、そして新しいところでは、サザンオールスターズの「真夏の果実」を、知る人ぞ知る新国劇の辰巳柳太郎の昔のお嬢さんが加わって、よく似たポリネシアン体型の二人が毎週土曜日30分間メドレーで踊って楽しんでいます。

読者の声

投稿のお願い

本誌における情報、言論の流れはとかく一方通行に終わりがちであり、編集に携わるパテント編集委員会としては本誌が読者に如何に読まれているか一寸気になります。

「読者の声」欄に、筆者への反論、編集者への注文などをEメールにてお寄せ下さい。

●宛 先：日本弁理士会 広報・支援・評価室「読者の声」係

TEL：03-3519-2361 FAX：03-3519-2706

投稿原稿はこちら… patent-bosyuu@jpaa.or.jp

※500字程度で、氏名・年齢・職業・連絡先を明記のうえ、投稿ください。

※掲載の都合上一部を手直しすることがありますので予めご了承ください。